

イーハトーブ賞奨励賞



佐々木 格 さん

大槌町の高台に自ら造った庭園に電話線のない電話ボックス「風の電話」を設置し、東日本大震災で被災した人が、亡くなった親しい人と語る場所として公開しました。また、私設図書館「森の図書館」を建て、賢治に関連した展示や朗読会などを開催。親しい人を亡くした人の心のケアや地域の共同性の再構築を目指した活動が高く評価されました。

が、亡くなった親しい人と語る場所として公開しました。また、私設図書館「森の図書館」を建て、賢治に関連した展示や朗読会などを開催。親しい人を亡くした人の心のケアや地域の共同性の再構築を目指した活動が高く評価されました。

プロフィール

釜石市出身。70歳。1962年、富士製鉄釜石製鉄所入所。89年より大槌町で企業の立ち上げに携わる。東日本大震災後、大槌町の自宅の庭園に「風の電話」を設置したほか、翌年には私設図書館「森の図書館」を開館し、心の震災復興に取り組む。本年「大槌宮沢賢治研究会」を発足、現在会員20人で活動している。

賢治の名において顕彰されるにふさわしい研究・実践的活動
「宮沢賢治賞」は、賢治に関する研究、評論、創作などの分野で優れた功績(おおむね過去3年以内)に発表されたものを対象を上げた個人や団体に贈られます。
「イーハトーブ賞」は、賢治の名において顕彰するにふさわしい実践的活動を行った個人や団体に贈られます。
さらに、それぞれの賞に準ずるものとして「奨励賞」があります。今回の選考対象は、宮沢賢治賞



◆贈呈式
日時…9月22日(火)
午前10時
会場…なはんプラザ
※どなたでも入場できますので、ぜひお越しください

が20件、イーハトーブ賞が21件。選考会はそれぞれ2回行われ、厳正な審査の結果、宮沢賢治賞1人、同奨励賞2人、イーハトーブ賞および同奨励賞に各1人を決定しました。受賞者の皆さんにはその業績をたたえ、賞が贈られます。

第25回

宮沢賢治賞・イーハトーブ賞

宮沢賢治に関する優れた研究や、その精神を実践している方に贈る「宮沢賢治賞」と「イーハトーブ賞」の本年度の受賞者が決定しました。
贈呈式は9月22日(火)、なはんプラザで行います。

【問い合わせ】本庁賢治まちづくり課(☎24-2111内線371)

本市が決定・表彰する「賢治賞」「イーハトーブ賞」

こととして25回目となる「宮沢賢治賞」「イーハトーブ賞」の受賞者が決定しました。
この二つの賞は、本市が毎年度、候補者の選考について「宮沢賢治学会イーハトーブセンター」(※)に意見を求め、その選考結果を受けて決定、表彰するものです。
※宮沢賢治とその作品を研究、愛好する人たちが交流し、賢治と賢治の作品に対する理解を深めることを目的とした組織



7月27日、宮沢賢治学会イーハトーブセンター代表理事の栗原敦さん(写真右)から上田市長に選考結果が渡されました

宮沢賢治賞奨励賞



秦野 一宏 さん

ドストエフスキーやチェーホフを中心とするロシア近代文学の専門的研究の業績を持ち、それらを

生かした賢治論文は研究史上貴重です。賢治童話の動的で多面的な世界を粘り強く読み解いた著書「宮沢賢治とは何かー子ども・無意識・再生」における、堅実で丁寧な研究が高い評価を受けました。

プロフィール

大阪府出身。61歳。大阪外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業。早稲田大学大学院文学研究科修士・博士課程修了(ロシア文学専攻)。1992年、海上保安大学校助教授、97年より教授。

宮沢賢治賞奨励賞



グレゴリー・ガリー さん

宮沢賢治や谷崎潤一郎らを「エコロジー」という角度から論じた英語の研究書を刊行し、国内外で高い評価を得

ました。今回の選考対象資料である賢治を主題とした第2部の日本語訳「宮澤賢治とディープエコロジー」は、外国人による宮沢賢治研究・日本近代文学研究として画期的な水準、スケールを備えており、奨励賞に値すると評価されました。

プロフィール

米国シカゴ在住。51歳。カリフォルニア州ポモナ・カレッジ卒業。テレビ制作アシスタントからUCLA東アジア言語・文化学科助手などを経て1999年に博士号(日本文学)を取得。その後2007年までシカゴ大学東アジア言語・文明学科で教鞭を執る。現在は子育ての傍ら、創作(小説)活動に専念している。

イーハトーブ賞



高畑 勲 さん

長編アニメーション「ゼロ弾きのゴーシュ」(1981年度毎日映画コンクール大藤信郎賞受賞)の監督をはじめ、その後も宮沢賢治と深く響き合うモチーフを込めた作品を制作しています。また、スタジオジブリの創設に参画し、独創的な意欲作を発表するなど、日本のアニメ文化の向上に果たした役割は大きく、その業績が高く評価されました。

その後宮沢賢治と深く響き合うモチーフを込めた作品を制作しています。また、スタジオジブリの創設に参画し、独創的な意欲作を発表するなど、日本のアニメ文化の向上に果たした役割は大きく、その業績が高く評価されました。

プロフィール

三重県出身。79歳。東京大学文学部仏文科を卒業後、東映動画株式会社に入社。TVシリーズ「狼少年ケン」で演出に昇格、以後、劇場用長編やTVシリーズのアニメーション映画の監督や演出を多数手掛ける。宮崎駿らと共にスタジオジブリ設立に参加し、現在は顧問。日本大学芸術学部映画学科非常勤講師も務めている。

宮沢賢治賞



吉見 正信 さん

宮沢賢治に関連する場所の現地調査や、賢治と交流のあった人たちへの取材を精力的に行い、それらをもとに賢治研究を進め、60年以上にわたり数々の先駆的論考や著書を発表しました。講演会のほか、詩碑・歌碑の監修も多く手掛け、宮沢賢治学会イーハトーブセンターの発起人も務めるなど、永年の精力的で継続的な活動が高く評価されました。

宮沢賢治に関連する場所の現地調査や、賢治と交流のあった人たちへの取材を精力的に行い、それらをもとに賢治研究を進め、60年以上にわたり数々の先駆的論考や著書を発表しました。講演会のほか、詩碑・歌碑の監修も多く手掛け、宮沢賢治学会イーハトーブセンターの発起人も務めるなど、永年の精力的で継続的な活動が高く評価されました。

プロフィール

東京都出身。87歳。大東文化学院(現・大東文化大学)卒業。東京での雑誌記者生活より転じ岩手県に移住。その後県内の高等学校教員を歴任。学術・文化活動としては、東方学会永年会員、日本文学協会会員、宮沢賢治学会イーハトーブセンター設立発起人・理事、高村光太郎記念会評議員、岩手史学会評議員などを務めた。